「命の道」紀勢自動車道・海山ＩＣ（三重県紀北町）

# 巻頭言

中部地質調査業協会
理事長　**大久保 卓**

国内の経済状況は、長引く低成長、厳しい雇用情勢、財政赤字などの諸問題に対し依然解決のめどが立たず、海外に目を向ければ、欧州の財政危機や米国の景気低迷、新興国の経済成長の減速によって世界経済の不透明感が強まっています。さらに、追い討ちをかけるかのごとく、歴史的な円高は日本企業の経営を圧迫し、「産業の空洞化」が現実の問題となりつつあります。

そのような背景の中、昨年3月11日、これまでに経験したことのないM9.0の巨大地震「東北地方太平洋沖地震」が発生し、一言では言い表せないほどの史上まれにみる大震災となりました。さらに、その後の福島原発の事故、台風12号、15号による集中豪雨、タイの洪水による長期浸水など、まさに2011年はわれわれ日本人を震撼させる大災害が続きました。

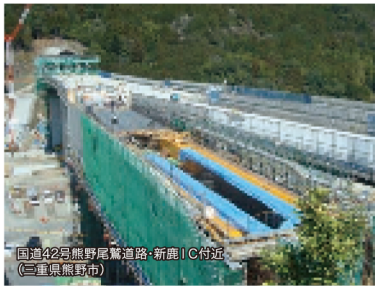
中部地質調査業協会が加盟する全国地質調査業協会連合会の会員の中にも少なからず被災された方々がおり、心からお見舞いを申し上げるとともに、早期復興に向けて国をあげた懸命の取り組みに対し、われわれ協会員も一致団結して協力をする覚悟であります。

近年のわが国の大震災を振り返ってみると、北海道南西沖地震（1993年）、阪神・淡路大震災（1995年）、三宅島雄山噴火（2000年）、新潟県中越地震（2004年）など枚挙に暇がありません。しかし、日本人は四季豊かなこの日本列島に住み続ける限り、地震・津波・豪雨・台風といった自然の脅威と「共存」することが宿命でもあります。

そして、われわれ日本人は幾多の苦難を乗り越え、そのたびに立ち上がり、これまで以上に強くなってきました。昨年の痛ましい大災害に対しても、苦難の時にあっても諦めることなく、互いに支え合い、目の前の困難を一つ一つ克服していく日本人のたくましい力を再認識したことも事実です。不屈の精神と助け合いの気持ちを持った人々の力、そして強力なチームワークという、わが国ならではの強みを最大限に発揮していくことによって、日本は必ずやこの危機を乗り越え、再び力強く発展していくことができると確信しています。

中部地質調査業協会といたしましても、今回の震災を契機に、今一度「安心・安全な国土形成」に向けてのさらなる行動を推し進めなければなりません。地盤が脆弱な日本において、地質調査業は欠かす事の出来ない仕事です。私ども地質調査業者は、その業務に責任と自信と誇りを持ち、決して諦めることなく、国民の生命と財産を守る事を使命として歩み続ける所存です。

2012年を、復興・再生から新たな飛躍へと大きく踏み出す「希望の年」とするため、皆様からのより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



国道42号熊野尾鷲道路・新鹿ＩＣ付近（三重県熊野市）

紀勢自動車道・高丸山トンネル（三重県紀北町）